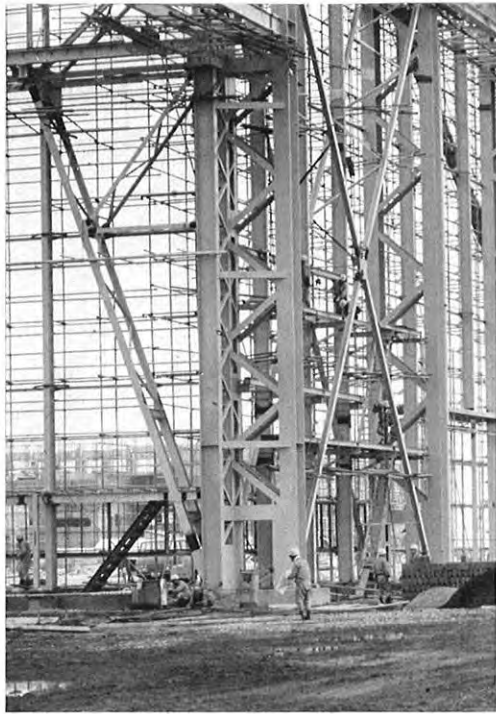


▶ 大小の組立工場の建設もハイビッチ



▲ 2ドックシステム・着々進む超大型ドックの建設

工業の再配置、地方分散ということが、大きな課題となつていますが、県は少なくとも公害の恐れのない、知識集約型の企業なら積極的に誘致しようという基本姿勢の下に努力しています。
そして、これまで経済成長オンリーでやってきた日本の社会にはなかつたような、ユニークでこれからの時代にふさわしい工場団地なり環境整備をやつていきたいと考えております。
このような意味から長洲地先に建設中の日立造船有明工場をみてみますと、総面積百五十一万平方

メートルの敷地を大きな工場公園にみたくて、最高約七十メートルの道路を基盤の目のように走らせ、それぞれの通りに、東西に一条から八条通り、南北に天草、阿蘇、高千穂通りなど九州の観光地名をとつて名付けています。沿道には樹木や芝を植え、グリーンベルトをつくるなど次第に現われてくるその姿をみると、これからの工場のひとつのモデルがそこにあるような気がします。

▼すでに稼動中の工場内港



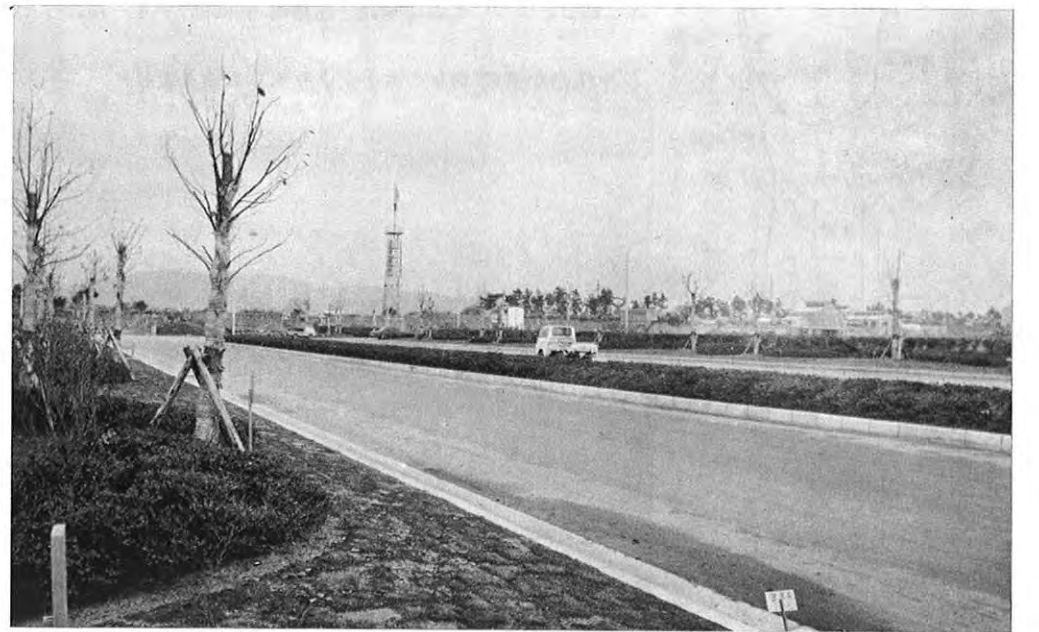
◀工場内を走るバイパス

ユニークなこれからの工場

——日立造船有明工場の建設にみる——



▲“森の中の造船所”づくりが進められている



▲熊本にちなんだ植えられた県木楠の並木